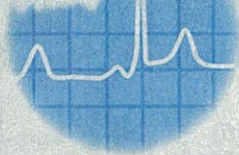


北陸中央病院は、小矢部市内で唯一、人工透析が可能な医療機関であり、約50人の患者が週に3回、透析を受けにやってくる。1回の透析にかかる時間は4時間。患者にとっては大きな負担だ。「透析にならないための啓発はもちろんなってしまった患者さんにも何ができるかを考えることも重要です」

全国の患者の2%

北陸中央病院は2年前、全国の透析患者のうち、利用しているのは2%程度という「腹膜透析」を導入した。腹部に特殊なチューブを差し込む手術を行った上で、内臓の隙

## 医療



# 最前線

▶67

北陸中央病院③ 第2内科部長 武藤 寿生さん(47)



腹膜透析について説明する  
武藤さん  
—小矢部市の北陸中央病院

むつ・ひさお 福井県高浜町出身。金大医学部を卒業後、2013年に北陸中央病院第1内科医長。16年から現職。

## 腹膜透析で選択肢提供

間に透析液を注入。腹膜を介して老廃物を透析液内に出し、二日に数回、透析液を交換するという珍しい方法だ。透析液の交換は自宅や職場、学校でも可能で、一般的な透析と違って通院は月1回ほどで済み、患者の生活の自由度は高くなる。「患者さんの中には、仕事で忙しい人や週3回の通院が困難な人がいる。選択肢を増やし、患者さんが納得できる医療を提供することが、最善だと思います」

「た」と思いを語る。一方で、透析液の交換は医療従事者以外、つまり患者自身や家族が行うため、患者への安全教育が必要となる。そうした新たな教育システムを確立するのは、医療機関にとって大きな負担で、敬遠するところも多いという。

北陸中央病院でも、導入の是非を巡っては激しい議論が交わされた。それでも、「小矢部市は今後、さらに高齢化率が高まると予想される。将来を見据えると不可欠と考えました」と振り返る。

自分らしい生活を

現在、北陸中央病院で腹膜透析を受けている患者は3人。1人は仕事と治療の両立を目指しての選択だった。「治療をしながら、自分らしく生活している患者さんを見ると、導入して良かったと思います」と、手応えを強調する。

初対面の人と言葉を交わす際にも、自身の名前をネタに「めでたい名前でしょ?」とユーモアを交えるような、気さくで明るい人柄で、看護師

らにも「いつも笑顔を絶やさない」と親しまれている。ただ、腎臓を専門に選んだ理由を尋ねると、即座に「医師として弱点をなくすため」と答えが返ってきた。腎臓の治療には糖尿病の診療が必須であり、結局は全ての臓器に対する知識が必要になると考えているという。穏やかな風貌の裏に、強い意志を見た。